

研究・調査報告書

報告書番号	担当
23	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of lung cancer: a pooled analysis of cohort studies アルコール消費と肺がんリスク：コホート研究の統合分析	
執筆者	
Freudenheim JL, Ritz J, Smith-Warner SA, Albanes D, Bandera EV, van den Brandt PA, Colditz G, Feskanich D, Goldbohm RA, Harnack L, Miller AB, Rimm E, Rohan TE, Sellers TA, Virtamo J, Willett WC, Hunter DJ	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr 2005;82:657-67.	
キーワード	
アルコール消費、食事、疫学、肺新生物、メタアナリシス	
<p>要 旨</p> <p>喫煙が肺がんのリスクであることはよく知られているが、喫煙と肺がんの関連を修飾している因子やアルコール飲用と肺がんの関連は、十分には理解されていない。そこで、世界各地からの7つのコホート研究を個人ベースで統合し、399,767人のデータに基づきメタアナリシスの手法を使って検討した。ここでは、3137人の肺がん症例があった。</p> <p>分析の結果、1日平均30g以上飲酒する人は、飲まない人よりも男性で1.21倍、女性で1.16倍リスクが高かった。生涯非喫煙者男性においても、1日15g飲酒する人は、飲まない人よりも6.38倍肺がんリスクが高かった。女性では、生涯非喫煙者が少なく、飲酒は肺がんのリスクとはなっていなかった。禁煙者と生涯非喫煙者で飲酒の肺がんリスクに対する検討も実施したが、結果は同様であった。</p> <p>結論として、1日30g以上の飲酒者では、肺がんのリスクは高くなり、特に非喫煙者では、非飲酒者と比較するとより高い相対危険度であった。このことから、非喫煙者の肺がんには、アルコール飲用も関連していることがわかった。</p>	